

2026 第12回

稲敷市親善大使海外派遣団 報告書

メモリアームの思い出 In カナダ



発行：令和8年度 稲敷市親善大使海外派遣団一同

2026 第12回稲敷市親善大使海外派遣事業 行程表

▼派遣団11名(青少年8名+随員3名)

2026.8.17～8.25

日次	月日(曜)	地 名	現 地 時 間	交 通 機 関	摘 要	食 事
1	8月17日 (月)	稲 敷 市 成田空港発	15:00 18:30	専用バス 航 空 機 W S 0 8 1	稲敷市庁舎→成田空港へ 空路カルガリーへ	夕:機内
-----国際日付変更線通過-----						
		カルガリー着	12:40		カルガリー到着、入国手続き	朝:機内
		カルガリー発	16:50	航 空 機 W S 1 8 9	国内線ターミナルへ移動 航空機にてケローナへ	昼: -
		ケローナ着	17:00	専用バス	サーモンアームへ	夕: -
		サーモンアーム	18:30		ホストファミリーとの対面式 《ホームステイ泊》	
2	8月18日 (火)		8:45 10:00 13:15		友情の門見学・記念撮影 市庁舎表敬訪問・歓迎式典 (生徒等スピーチ) 各種アクティビティ等 《ホームステイ泊》	
3	8月19日 (水)		15:00		フリー(ホストファミリーと過ごします) ヘラルド州立公園にてキャンプ 《キャンプ泊》	
4	8月20日 (木)				ヘラルド州立公園にてキャンプ 《キャンプ泊》	
5	8月21日 (金)		11:00		ヘラルド州立公園にてキャンプ フリー(ホストファミリーと過ごします) 《ホームステイ泊》	
6	8月22日 (土)				フリーデー(ホストファミリーと過ごします) 《ホームステイ泊》	
7	8月23日 (日)		17:00		フリーデー(ホストファミリーと過ごします) さよならパーティー 《ホームステイ泊》	
8	8月24日 (月)	サーモンアーム ケローナ着 ケローナ発 カルガリー着 カルガリー発	7:00 7:15 10:55 13:00 14:50	専用バス 航 空 機 W S 1 8 6 航 空 機 W S 0 8 0	集合 サーモンアームから 専用車にてケローナへ 航空機にてカルガリーへ 国際線ターミナルへ移動 空路帰国の途へ 《機中泊》	朝: - 昼: - 夕:機内
-----国際日付変更線通過-----						
9	8月25日 (火)	成田空港着 稲 敷 市	16:20 19:00	専用バス	成田空港到着、入国手続き 稲敷市庁舎にて解散	朝:機内

2026 第12回稲敷市親善大使海外派遣事業 名簿

《団員》

※学年順

No.	中高別	氏名	性別	学校名	学年
1	高	木内 樹李愛	女	千葉県立佐原白楊高等学校	3
2	高	井川 恵汰	男	茨城県立竜ヶ崎第一高等学校	2
3	高	坂本 光太郎	男	茨城県立土浦第三高等学校	2
4	高	根本 唯芽加	女	千葉県立佐原高等学校	1
5	中	田村 律季	男	稲敷市立江戸崎中学校	3
6	中	坂本 真央	女	稲敷市立桜川中学校	3
7	中	佐藤 凛音	男	東洋大学附属牛久中学校	2
8	中	野村 湖白	女	稲敷市立新利根中学校	2

《随行員》

No.		氏名	性別	所属	役職
1	団長	清水 美香	女	稲敷市姉妹都市交流委員会	会長
2	随行員	粕部 直子	女	稲敷市姉妹都市交流委員会	理事
3	事務局	中桐 洋介	男	稲敷市まちづくり推進課	係長

遂に派遣事業再開！

団長 稲敷市姉妹都市交流委員会

会長 清水 美香

思い起こせば 2020 年 2 月。サーモンアーム市の派遣団員と稲敷市の受け入れ家庭が決まり、あとはサーモンアーム市からの到着を待つだけとなった段階で、折からのコロナ禍によって派遣事業中止が決定されました。その後は復活すべく両市の姉妹都市メンバーが手を尽くしましたが中々再開することができず、最後の派遣事業よりあっという間に 7 年という年月が過ぎ去っていました。



コロナが収束し世界が元の生活に戻っていく中、私たちの派遣事業だけがコロナ禍から抜け出せずにいる状態でした。姉妹都市の存在意義も問われかねない中、新規事業として国際交流事業を企画するなどして、見えないゴールを模索する日々が続きました。そのような中、突然曇天から晴天に変わるかの如く、サーモンアーム市より「受け入れ態勢ができた」との連絡をいただき、本当に飛び上がって喜びました。しかし、一瞬喜んだあとにすぐ冷静になり、「実現するまではぬか喜びしないようにしよう」と自制するよう

心掛けました。



そんな不安とは裏腹に、派遣事業再開に向けた準備は着々と進みました。一点心が痛んだのは、派遣団員数が以前より大幅に減ったことです。過去には 20 名前後だった派遣団員数は、今回は 8 名のみ受け入れ可能とのこと。しかし、7 年ぶりの募集で申込者が 22 名あり、くじ引きで決めるしかありませんでした。当選した 8 名の派遣団員は、今回行けなかった人たちの思いも背負って一緒に行くことになりました。

私自身、随行員としてサーモンアームを訪れるのは、2017 年以来 2 回目となります。9 年ぶりの訪問ということもあり、色々なことが様変わりしていて驚かされました。成田空港でのチェックインは、荷物を預けるときにパスポートを提示するだけのチケットレスでした。カナダ・カルガリー空港での税関検査は大人 1 人につき、未成年者 5 人まで同時にキオスク(Kiosk/自動入国審査端末)で行うことができました。入国検査も同じグループとして大人だけが検査を受け、生徒たちはそのままスルーでした(せっかく入国審査の練習をしたのですが！)。

また、サーモンアーム市でも変化がありました。近年の山火事多発に伴う煙の影響が問題となっているため、大気質(Air Quality)をチェックできるスマホアプリを

導入し、「今日は空気が悪いね」「今日は空気が澄んでいるね」などと、会う人と挨拶代わりに言葉を交わす場面がありました。山火事の多くは雷が原因となるため、リアルタイムの落雷追跡アプリを入れ、雷鳴が聞こえるたびに確認していました。幸いにも私たちの滞在中はサーモンアーム市内に煙はあまりありませんでしたが、私たちが到着する直前まではひどい煙だったそうです。滞在中には雷を伴う大雨に見舞われ、車で移動中に道路へ木が倒れている光景にも遭遇しました。

そんな中、滞在中は2泊3日のキャンプを実施しました。私は前回もキャンプを体験したので、ある程度は慣れていました。しかし、稲敷市の生徒たちは初めてのカナダでの広いキャンプサイトと美しい湖でのアクティビティ、生徒たちだけでのテント泊など、日本では滅多にできないような素晴らしい体験をしました。前回は各ホームステイ先の保護者も一緒にキャンプをしましたが、今回は生徒たちのみだったため、最初は不安でした。しかし、生徒たちは自分たちで責任を持って行動してくれました。

実はサーモンアーム側の姉妹都市活動は完全ボランティアです。コロナ禍前は多少、教育委員会からの金銭援助がありましたが、今回は全くないとのことでした。再開に時間がかかったのは、それも原因の一つだったそうです。今回、金銭援助がないにもかかわらず再開できたのは、パムさんを先頭に、これまで稲敷市に派遣団員として来てくださったことのある先生方のおかげだと伺いました。キャンプ費用や各家庭の負担については後日、寄付を募って賄うとのことで、本当に感謝してもしきれません。

7年ぶりの再開として、幸先の良い出来事もありました。サーモンアームの新聞に掲載

されたり、CBC ニュース(カナダ公共放送)での放映および Web サイトでの紹介があり、ダウンタウンでも「知ってるよ！見たよ！」と声をかけられました。また、在バンクーバー日本国総領事館の高橋総領事が当姉妹都市委員会の活動を知り、サーモンアーム市にお越しになりました。そして、今回同行した箕市長とサーモンアーム市の Harrison 市長、そして高橋総領事で、両市の派遣事業についてお話しする機会を得ました。両市の姉妹都市派遣事業をより多くの方々に知っていただく良い機会になりました。

最後に、今回随行員として同行した相部氏、中桐氏には大変お世話になりました。9年前より確実に体力等の衰えを感じた私でしたが、事前研修から現地活動まで支えてくださり感謝申し上げます。そして、この素晴らしい派遣事業が未来へ続いていくよう、これからも会長として自分にできることを一つひとつ重ねていきたいと思います。



姉妹都市交流派遣再開:実際に会うことの大切さ

随行員 稲敷市姉妹都市交流委員会
理事 相部 直子

サーモンアームのジャクソンスクールに到着すると、私たちが待っていてくださったホストファミリーや現地スタッフの方々が、温かい笑顔と盛大な拍手で迎えてくださいました。それは、長旅の疲れやホームステイに対する緊張感が一気にほぐれる瞬間でした。サーモンアームを訪問し、現地の人々に実際に会って話をし、遊び、食事を共にし、笑いあう、同じ場所で一緒に時間を過ごすことが、こんなにも貴重なことだったのだということを実感しました。



到着翌日は、サーモンアーム市長を算市長とともに訪問し、中高生は自己紹介やサーモンアームで挑戦したいことを堂々と英語でスピーチしました。市庁舎には姉妹都市交流の歴史を展示していただいている部屋もあり、感慨深く拝見しました。サーモンアームの方々が稲敷市との姉妹都市交流を大切に思ってくださっていること、信頼関係が長年続いてきたことの尊さを感じました。

現地の生徒たちと一緒にクッキー作りやTシャツを染める体験をする中で、言葉だけではなく、一緒に手を動かし、助け合い、笑い合いながら活動することで、皆が自然に打ち解けていく様子が、とてもほほえましかったです。現地メディアのインタビューに笑顔で答える派遣生の頼もしい姿もありました。



最も印象的な思い出となったのが、湖畔での2泊3日のキャンプです。自然豊かな環境の中で、テントを立て、朝昼食を自分たちで用意し、夕暮れまで何時間も湖に入って遊んだことは、忘れられない思い出になったのではないのでしょうか。キャンプ場の芝生広場で日本とカナダ、それぞれの遊びを一緒に楽しむ機会もありました。日本の生徒たちは「だるまさんがころんだ」や「すいか割り」を紹介し、カナダの生徒たちからは「Duck, Duck, Goose」を教えてもらいました。言葉が十分に通じなくても、身振り手振りでルールを教えたり、実際に一緒にやってみたりすることで、笑顔があふれていました。長い時間を一緒に過ごしたことで、子どもも大人もさらに距離が縮まったように感じました。夜には現地スタッフの方々がハンバーガーやホットドッグを大きな鉄板で手際よく用意してくださり、皆で食事をしました。自然の中で思い切り遊び、一緒に時間を過ごした2泊3日は、本当に思い出深い時間となりました。

した。

いろいろな場面で、生徒たちは伝えたいことをうまく英語で表現できないことがあったり、習慣や文化の違いに戸惑ったりしたこともあったと思います。それぞれが話題を考えたり、伝え方を工夫したり、分からないことを尋ねたりする中で、コミュニケーションの難しさと大切さを学びました。あきらめずに前向きに努力できたことは、将来につながる意義深い経験になったと思います。



最終日のさよならパーティーでは、「稲敷たから音頭」を披露し、二回目はカナダの生徒たちも加わって踊ってくれました。カナダの生徒たちはカラオケで歌を披露し、途中から日本の生徒も加わり、最後には自然と皆で一緒に同じ歌を歌い楽しむ時間へと変わっていきました。それは今回の交流を象徴するような、素敵な光景でした。

コロナ禍による中断の後、七年ぶりの派遣が再開し、無事に終了できたのは、現地スタッフ、ホストファミリー、ご尽力いただいた関係者の皆様、見守って応援して下さった派遣生のご家族の皆様の協力があったからです。心から感謝しています。この派遣をきっかけとして、生徒たちの間に生まれたサーモンアーム、海外への興味、関心が周囲の人々にも広がり、これからもこの素晴らしい姉妹都市交流が続いていくことを願っています。

ます。



言葉の壁を越えて学ぶ国際交流

千葉県立佐原白楊高等学校3年

木内 樹李愛

私は今回、カナダでのホームステイを通して、異なる文化や言語を持つ人と関わることの楽しさや難しさを実際に経験することができました。出発前は、英語での会話が十分にできるか、現地の生活に馴染むことができるかという不安がありました。しかし、実際に生活してみると、言葉が完璧に通じなくても、相手に伝えようとする気持ちや積極的に関わろうとする姿勢が大切だということに気づきました。

ホームステイ先では、ホストファミリーと一緒に食事をしたり、買い物に出かけたりするなど、現地の生活を身近に感じることができました。日本とは異なる食事や生活習慣を体験し、文化の違いを知るだけでなく、それぞれの文化にはそれぞれの良さがあることを学びました。特に、家族の一員として温かく接してもらえたことが印象に残っています。



今回の研修で特に印象に残っているのは、キャンプで湖に行き、みんなで泳いだことです。日本とは異なる自然環境の中で、友達や現地の人たちと一緒に過ごした時間は

とても楽しく、忘れられない思い出になりました。また、ボウリングにも連れて行ってもらいました。私は初めてのボウリングだったため、最初はうまくできませんでしたが、周りの人が教えてくれて、一緒に楽しんでくれたことで、楽しい時間を過ごすことができました。言葉だけでなく、スポーツや遊びを通じた交流も国際交流の一つだと感じました。



一方で、英語で自分の気持ちや考えを伝えることの難しさも実感しました。伝えたいことがあっても英語の表現が分からず、思うように話せない場面が何度もありました。しかし、そこで黙ってしまうのではなく、知っている単語を使ったり、身振り手振りを交えたりしながら伝えるようにしました。すると、相手も私の伝えたいことを理解しようとしてくれました。この経験から、英語を話す上で重要なのは、文法や単語を正確に使うことだけではなく、失敗を恐れずに伝えようとするのだと学びました。

また、今回のホームステイを通して、自分から行動することの大切さも学びました。日本にいるときは、言葉が通じることが当たり前なので、相手から話しかけてもらうのを待つてしまうことがあります。しかし、海外では自分から話しかけなければ交流が始まらないこともあります。そのため、簡単な英語でも自分から話しかけたり、質問したりするこ

とを意識しました。最初は緊張しましたが、自分から行動することで相手との距離が縮まり、会話が広がっていくことを実感しました。



海外派遣の最後には、さよならパーティーがありました。みんなで食事をしたり、カラオケをしたりして楽しい時間を過ごしました。楽しい時間だったからこそ、最後にホストファミリーと一緒に過ごした人たちと別れることがとても寂しく感じられました。サインを書いてもらったカナダの国旗も大切な思い出です。短い期間でしたが、家族のように接してもらったことで、国や言語が違ってても人とのつながりを築くことができるのだと実感しました。

今回のホームステイは、英語力を高めるだけでなく、自分自身の考え方を変える経験にもなりました。私は以前、他者と関わる上で言語は重要なものだと思っていました。しかし、実際に海外で生活してみて、言葉が完全に通じなくても、相手を理解しようとする気持ちや、自分の思いを伝えようとする姿勢があれば、人と人との関係を築くことができると分かりました。

この経験を今後の学校生活や将来にも活かしていきたいです。これからは英語だけでなく、さまざまな言語や文化について学び、異なる背景を持つ人とも積極的に関わるこ

とができる人になりたいです。そして、今回の経験で身につけた「自分から行動する姿勢」と「相手を理解しようとする気持ち」を大切にしながら、将来は国や文化の違いを越えて人と人をつなぐことができる存在になりたいと思います。



不安から最高の交流になるまで

茨城県立竜ヶ崎第一高等学校2年

井川 恵汰

私自身、カナダに行く前は不安でいっぱいでした。前回の姉妹都市交流に参加した先輩から何度もカナダのいいところの話を聞いて、楽しい気持ちがあっても、自分の英語が通じるのかという不安や、ホストファミリーとうまくやっていけるかという緊張が晴れることはありませんでした。

その気持ちは、実際に出発してからでも晴れることはありませんでした。サーモンアーム市に着き、ホームステイ先では疲れ切っているあまり眠れず、これからの不安に押しつぶされそうな夜を過ごして、カナダの初日は終わりました。

二日目の活動は、サーモンアーム市役所訪問と、高校でのクッキー作りなどのレクリエーションでした。このとき、ホストファミリーのターナーとたくさん話をしました。



伝えたいことをうまく伝えられず、適当な英語になってしまったり、たどたどしくなっていたりしても、ターナーは真摯に話を聞いてくれました。そして、それは他の人も同じでした。どんな人でも、私のつたない英

語を真剣に、身を乗り出しながら聞いてくれました。



その時から私は、ちゃんとした英語を話そうとして翻訳を使ったりするのではなく、とにかく自分の言葉で伝えようとするようになりました。それでホストファミリーと日本の祝日の話になった時、日本語で説明するのですら難しいことでも、どうにか自分の語彙で話し、それを理解してくれた時は本当にうれしく感じました。そのときには、行く前に感じた不安や緊張は晴れて、カナダでの生活を全力で楽しむことができていました。

ホストファミリーとの生活は、大切な思い出になりました。特に五日目の夜に、マウンテンコースターに連れて行ってもらって、ハンバーガーを食べたことが印象に残っています。

マウンテンコースターは、そりのようなものに乗って山を滑り落ちていく、一人乗りのジェットコースターのようなものです。初体験だったので、ゆっくり行こうとしても角度が急で、自然と速度が上がっていき、滑りきるのさえやっとなスリリングな乗り物でした。冬はスキー場として使われる場所だけあって、とてもきれいな場所で、いつか冬に来てみたいと強く感じました。



ハンバーガーは、その帰りに食べに行きました。そのあたりは有名なレストラン街だそうで、スキーをしに来た人はみんなそこでご飯を食べて帰らしく、私が連れて行ってもらったのは、そのうちの一つの「村のバカ」という名前のレストランでした。

そこで食べたハンバーガーはとても大きく、私の顔と同じくらいの大きさでした。最初に来たときは、頼んだことを少しだけ後悔しました。しかし、食べ始めてみると、ハンバーガーには牛も豚も鳥もベーコンも入った、最高に肉肉しいハンバーガーでした。とてもおいしく、最後まで楽しく食べることができました。

カナダで過ごした日々は、たくさんのわくわくと、出会った人たちの温かさに包まれ、言葉や文化が違ってても人の優しさは変わらないことを実感した、忘れられない一週間でした。



言語を超えてつながった一週間

茨城県立土浦第三高等学校2年

坂本 光太郎

カナダのサーモンアーム市で過ごした一週間は、私にとって初めて海外で生活する経験でした。行く前は楽しみな一方で、英語でうまく話せるのか不安もありました。英語の成績があまり良くなかったからです。しかし、実際に行ってみると、思っていたよりも会話することができました。

ホームステイ先では、Jakub とその家族にお世話になりました。私のために一人部屋を用意してくれていて、周りには自然が多く、家族はみんな自由に過ごしていました。最初は緊張していましたが、家族が気さくに接してくれたので、少しずつその環境にも慣れていきました。



Jakub とは、一緒に生活する中で少しずつ仲良くなりました。最初は何を話せばいいのか分からず、私自身もうまく笑えないこともありました。それでも、一緒にサッカーやバスケットボールをしたり、兄弟とテレビゲームをしたり、Jakub と弟と日本の映画を見たりしているうちに、だんだんと打ち解けていきました。カナダの高校生はバスケット

ボールがとても上手で、一緒にプレーしていて驚きました。長くて難しい話では翻訳アプリを使うこともありましたが、簡単な英語でも十分に一緒に楽しめることが分かりました。

食事の時間も思い出に残っています。お姉さんが作ってくれたクレープを食べたり、マッシュポテトやミートボールの Pasta、ピザなど、普段日本ではあまり食べないようなものも楽しみました。また、日本から持ってきた材料を使って、一緒にうどんを作りました。自分たちが普段食べている日本の料理をカナダの家で一緒に作るのは新鮮で、楽しい時間になりました。



ホストファミリーの優しさを感じる場面もありました。私がお腹を空かせていそうなときにはサンドイッチを作ってくれたり、姉が車で送ってくれたりしました。こうしたちょっとした気遣いがとてもうれしかったです。また、シャワーを浴びることが多かったり、起きる時間や寝る時間が比較的自由だったり、日本との生活習慣の違いも感じました。

ホストファミリー以外の人たちとの交流も印象に残っています。キャンプでは現地の中高生たちと一緒に過ごし、湖で泳いだり、釣りをしたり、みんなでホットドッグを食べたりしました。サーモンアームはどこへ行っても自然がきれいで、山や湖に囲まれて過ごす

時間はとても気持ちよかったです。また、友達が岩の隙間に携帯電話を落としてしまったときには、周りにいた現地の高校生や大人の人たちが、一緒になって取り出そうとしてくれました。カナダの人たちは、困っている人を見かけると、当たり前のように助けようとしてくれる姿が、とても印象に残っています。



街ではショッピングモールや商店が並ぶ場所にも行き、日本のアニメや漫画を扱っている店を見つけたことにも驚きました。カナダでも日本の文化が親しまれていることを知り、少しうれしく感じました。また、店員さんや街の人たちがとてもフレンドリーで、自然に会話をするということにも日本との違いを感じました。

帰国の日、Jakub と別れるときにはとても寂しくなりました。泣きそうになるのを我慢しながらハグをして別れました。最初は緊張してうまく笑えなかった私が、最後には心から笑えるようになり、別れることが寂しいと思えるほど仲良くなれたことには、自分でも驚きました。言葉が完璧に通じなくても、一緒に笑ったり、同じ時間を過ごしたりすることで人とつながれることを知りました。

この海外派遣で、私はもっと堂々と人と関わっていきたいと思うようになりました。困っている人を見かけると、自然に助けようと

行動するカナダの人たちの姿を見て、私も周りの人にもっと積極的に声をかけられるようになりたいと強く感じたからです。

また、英語はテストのためだけに勉強するものではなく、人とつながるための大切な道具だと実感しました。この一週間で、英語が完璧でなくても、自分から話しかけたり、一緒に行動したりすることが大切だと分かりました。ただ、もっと英語が話せれば、Jakub たちとさらに深い話ができたと感じたことも事実です。

これからは、日常会話で使える英語をもっと勉強し、失敗を気にしすぎず、堂々と人と関わっていきたいです。



カナダの文化が与えてくれた今と未来

千葉県立佐原高等学校1年

根本 唯芽加

私はカナダに行って、たくさんのことを学び、体験することができました。

派遣先のサーモンアーム市は、自然豊かで街並みも綺麗で、本当に素敵な場所でした。行けて本当に良かったです。カナダの自然は日本とは違う美しさがあって、特に湖は青く透き通っていてとても美しく、すごく感動しました。森や木の多いところでは鹿やリスなどの野生動物も多く、近くで見られたのがとても新鮮でした。

ご飯もとても美味しかったです。日本人と味の嗜好が違って食べられない、ということもありませんでした。むしろ日本人好みの味のように感じました。そのおかげで、私は特に日本食が恋しくなることもなく、カナダの食べ物をたくさん満喫することができました。



楽しかったことは、みんなでの活動です。国の違いを超えて、キャンプやトランプゲーム、ビーチバレーなどをしたことが本当に楽

しかったです。特に強く印象に残っているのは、スプーンというカードゲームです。カナダにいた間は、何回もこのゲームをプレイしました。私は友達と遊ぶ時、どこかへ遊びに行くのがお決まりのパターンだったので、みんなとずっとカードゲームで遊んでいたのは、いい意味でカルチャーショックでした。カナダの人たちは、楽しみを見つけることが上手く、小さなことを最大限に楽しもうとする姿勢と、その方法を知っているように見えたからです。最初、「これ楽しいのかな」と思うことありましたが、実際にやってみるととても楽しく、私には、どんな物事も楽しく取り組もうとする姿勢が足りなかったことに気づかされました。また、みんなでいたからかもしれないませんが、スマホを使っている人が少ないように感じました。それは、カナダの人たちがみんなという時間を大切にしているからなのかなと思いました。カナダの人たちの生活の仕方は、日本に帰ってからでも真似したいなと思えるような素敵なものです。



もう1つ、カルチャーショックを感じたのは、時間におおらかな人が多かったことです。集合時刻を過ぎているのに焦らず、到着しても誰も何も言わない、それが当たり前のようになっていました。時間に縛られることが少なかったです。そのためか、カナダの人々はマイペースで、おおらかな人が多いよ

うに感じました。私は正直、5分前行動が苦手なので、こういう文化が日本にも広まったらいいなと思ってしまいました。

カナダは本当にいろんな側面から素敵だと言える国でした。個人的に、カナダの居心地がとても良くて、もっと日本にカナダの文化が広まって欲しいと思いました。



そして、カナダに行ったことから、私はもっと色々な世界を知りたいと思うようになりました。大学生になったら中期の留学もしてみたいと考えています。もっと色んなところに行って、それぞれの国の素晴らしさを自分の目で見て、感じてみたいです。だから、高校1年生のこの時期に海外に行くという貴重な体験ができたことは、私にとってとても大きな思い出となりました。

稲敷市とサーモンアーム市の友情が終わることなく、この海外派遣事業がこれからもずっと続くことを祈っています。



サーモンアーム市を訪問して

稲敷市立江戸崎中学校3年

田村 律季

私は今回、稲敷市の姉妹都市であるカナダのサーモンアーム市を訪問しました。海外に行くのは初めてだったので、出発する前は楽しい気持ちがある一方で、英語での会話や日本とは違う環境で生活することに少し不安もありました。しかし、実際に現地で過ごしてみると、普段の生活ではできないような経験をたくさんすることができました。

サーモンアーム市では、ホームステイをしながら現地の方々と交流しました。ホームステイでは、現地の家庭と一緒に生活することで、日本とは違う生活の仕方を知ることができました。特に食事は、日本で普段食べているものとは違うものが多く、実際に現地の料理を食べることで、外国の食文化を身近に感じることができました。今回の滞在では、普段の日本での生活とは異なる食事として、卵やベーコン、パンケーキなどを日本とは少し違った調理法や味付けを食べる機会もありました。また、タコスを作ったり、ハンバーガーやポテトを食べたりすることも日本の日常とは違う点でした。実際に現地の食事を体験することで、外国の食文化を知ることができました。



現地の自然についても強く印象に残りました。日本で普段生活していると、外国の大自然を実際に見る機会はなかなかありません。その場所で過ごし、現地の空気を直接感じることで、写真やインターネットだけでは分からない大きさや雰囲気を感じることができました。



これまでに稲敷市とサーモンアーム市の交流は長く続いており、多くの中学生や高校生がサーモンアーム市を訪れています。今回、自分もその交流に参加して、現地で生活することができました。出発前は英語での会話などに不安がありましたが、現地で過ごしていくうちに、少しずつ自分から話してみようと思えるようになりました。また、現地の方と一緒に過ごす中で、言葉の違いについても考えるようになりました。しかし、英語を使って話すことは簡単ではなく、伝えたいことをうまく言えない場面もありました。それでも、知っている英単語を使ったり、身振り手振りを使ったりしながら、相手に伝えようとすることは続けていきました。すると、英語が完璧に話せなくても、相手とコミュニケーションを取ることはできるということが分かってきました。

私はこれまで、外国の人と交流するときには、英語を上手に話せることが一番大切だと思っていました。しかし、今回の経験から、

それだけではなく、相手の話を聞こうとすること、自分から話しかけようとする、相手の文化を知ろうとすることも大切だと感じました。言葉が違って、お互いに伝え、理解しようとする気持ちがあれば、交流することができると実感しました。

様々な気づきの中で、特に印象に残ったのは、ホストファミリーと一緒に過ごした時間です。一緒に食事をしたり、映画を見たり、普段とは違う生活を過ごす中で、言葉が違っていても楽しく過ごせることが分かりました。また、日本とは違う食事や生活の仕方を実際に体験したことで、外国の文化をより身近に感じる事ができました。今回の経験を通して、外国の文化を知るためには、実際に自分で体験してみる事の大切であるということ、そして、日本と外国では生活や文化にさまざまな違いがあることを知りました。しかし、違うところがある一方で、一緒に食事をしたり、話をしたり、楽しい時間を過ごしたりすることを大事にすることは、日本でも外国でも同じであるとも感じました。国が違って、人と人との交流には共通する部分があることが分かりました。



今回のサーモンアーム市への訪問は、私にとって外国の文化を知るだけでなく、自分から行動することの大切さを学ぶ機会にもなりました。最初は英語で話すことに不安があ

りましたが、実際に話してみることで少しずつ慣れていきました。分からないことをそのままにするのではなく、自分から聞いたり、伝えようとしたりすることが大切だと感じました。

この交流で学んだこれらのことは、これから先、外国の人と関わる時にも役立つと思います。今回学んだことを忘れず、これからも外国の文化や言葉に興味を持ち、いろいろな人と積極的に交流していきたいです。そして、稲敷市とサーモンアーム市の交流がこれからも続き、私たちのような若い世代が交流する機会も続いてほしいと思います。



言葉を越えたコミュニケーション と世界の広さ

稲敷市立桜川中学校3年

坂本 真央

私にとって、今回のホームステイは挑戦にあふれた8日間でした。私は当初、この挑戦に応募することをためらっていました。なぜなら私は英語をうまく話せないし、受験生であるこの時期に参加してもよいのかと、私は悩んでいました。ですが、「英語力も伸びるし、人生の価値観が変わるから、絶対に行ってみたほうが良いと思うよ。」と親から助言をもらい、思い切って応募することを決めました。



そして派遣団に選ばれて、カナダに行くことが出来ました。初めて行く場所だったので、空港に着いた時から緊張していました。日本とは違う景色や、当たり前と話していた日本語が聞こえないということに少し不安を感じました。しかし、それと同時にカナダの人たちと仲良くなりたい、というワクワクな気持ちもありました。



ホストファミリーと初めて会ったときも緊張していました。そのせいで、聞き取れる言葉も聞き取れなかったり、言いたいことを上手く英語で伝えられなかったりしたので、最初は悔しいことばかりでした。しかし、ホストファミリーはとても親切で、私が分かりやすいように簡単な単語に直してくれたり、ゆっくり話してくれたりすることで、だんだん慣れてきてコミュニケーションをとることができるようになりました。この経験から、英語を完璧に話すことよりも、相手に伝えようとする気持ちが大切だと学びました。間違えなければ得られないこともあると学び、英語をもっと話したいと強く思うようにもなりました。

また、私にいろいろな経験をさせようと多くの場所に連れて行ってくれました。中でも、特に食事の違いで驚くことを2つ体感してきました。基本的にパンが主食なのですが、たまにカナダにいてもお米が出てきたことにびっくりしました。そして、もう一つ驚いたことはご飯の量でした。レストランで出てきたご飯が、想像した量の二倍くらい多くできて、食べきれないこともありました。私がホームステイした中で苦労したことの一つがその食事の量でした。



食べ方や生活も少し日本と違いました。食事の面では、日本ではパンを手で持って食べることが多いですが、カナダでは、皿にパンをのせて、フォークとナイフで器用に食べているのが、強く印象に残っています。そして生活面では週に三回くらいしか洗濯をしなかったり、夜ご飯を食べ終わったら皆でよくカードゲームをしたり、家族の団らんを大切にしていました。日本では当たり前のことが、カナダでは当たり前ではないことを改めて実感しました。

今回のホームステイ8日間は挑戦すること、失敗を恐れないことの大切さを学びました。行く前は英語が話せないことや、受験勉強の事を考えると不安な気持ちもありました。ですが、実際に現地で生活をする中で、英語を学ぶだけではなく、日本とは違う文化や生活を知ることが出来ました。また、言葉で失敗しても、相手に気持ちを伝えようと続けたことで、少しずつコミュニケーションが取れるようになりました。帰国した現在も、SNSを通じてカナダの友達と交流が続いています。

この8日間で経験したことは、私の人生にとって忘れられない思い出になると思います。今回色々な人と出会うことで、世界の広さを知り、自分の弱さを身をもって感じる事が出来ました。何よりも沢山の愛や優しさ

を身にしみて感じる事が出来ました。

そして私には、将来の新しい目標ができました。それは今回の経験を活かして、またいつの日か、カナダや海外留学に行き、この失敗や後悔を次の成功につなげていくことです。

この派遣事業を通して、沢山の愛や感動、そして最高の体験をさせていただき、本当に幸せな時間でした。ありがとうございました。



カナダで気づかされた大切な物

東洋大学付属牛久中学校2年

佐藤 凜音

8月17日

カナダのサーモンアーム市に到着し、ホームステイ先の男の子であるリアムさんと初めて対面した。少し緊張していたけれど、一緒に記念写真を撮ることができて、とても嬉しかった。長旅の疲れもあり、その日の夕飯に出してくれたガパオライスがとても美味しく、心がホッとした。

8月18日

午前中はサーモンアーム市の市役所を訪問し、この街が歩んできた歴史や文化について知ることができた。午後はジャクソン高校へ向かい、みんなで昼ご飯を食べた。その後は現地のクッキーを作ったり、体育館で体を動かして遊んだり、広い学校の中を探検したりして、充実した一日を過ごした。



8月19日

午前中はリアムさんと家で人気ゲームのフォートナイトをやったり、テレビを見たりして、一気に距離を縮めることができた。午後

からはキャンプ場へ移動し、二泊三日のキャンプが始まった。その日の夜は大自然の中でハンバーガーを食べたが、あまりの美味しさにたくさん食べ過ぎてしまい、次の日の朝ごはんが入らないくらい、お腹がいっぱいになってしまった。



8月20日

前日の満腹と疲れから、僕が起きるのが遅くなってしまった。起きたときは、周りのみんなは、すでに朝から近くの湖へ遊びに行っていた。午後からは僕も合流して、みんなと一緒に湖で遊んだ。一日中無我夢中で泳いだことにより、次の日から激しい筋肉痛に悩まされることになるとは、その時の僕はまだ知る由もなかった。夕飯のホットドッグは泳ぎ疲れた体にとっても染みた。

8月21日

朝目覚めた瞬間から、全身の激しい筋肉痛と日焼けのヒリヒリとした痛みが、僕の体を襲い、痛みとの戦いは朝早くから繰り広げられていた。夜には、大型スーパーのウォルマートへ行き、日本へ持ち帰るお土産と探した。ミスタービーストのチョコを探したけれど、残念ながら見つかることができなかった。夕飯はほっとする味のうどんで、とても美味しかった。

8月22日

ステイ先のリアムちゃんと妹のミラちゃんと一緒に大きなプールへ行った。そこには流れるプールや波が出るプール、ウォータースライダーなどたくさんの種類があり楽しかった。その中でも飛び込み台から飛び込んだ際、姿勢をミスして全身で水面を叩いてしまい、とても痛かった。その帰りは家族みんなでショッピングモールに行った。夜は、派遣団員の真央とそのホームステイ先の家で映画を見る約束があったため、少し急ぎ気味で移動したが、集合時間より少し後に到着してしまった。

時間に遅れてしまったが、ショッピングモールから帰る途中に山火事が起きた跡を見つけることができた。当日の天気は雨が降っていたにもかかわらず、山火事が発生していたことにカナダの大自然のスケールと凄まじさを感じてびっくりした。

結局、夜の映画は、昼間のプールと長旅の疲れから途中で熟睡してしまい、内容はほとんど見ずに寝てしまった。



8月23日

この日は夜にさよならパーティーが開催された。あやさん(ステイ先のお母さん)が昼頃からみんなで食べる夕飯を作ってくれている間に、僕たちはホームステイに来ている

派遣団員のみんなでボウリング場へ遊びに行った。

ところが、そのボウリング場を見て僕はとても驚いた。なんと球のサイズは片手にすっぽり収まるほど小さく、ピンも5本しかなかった。わけも分からず続けていると、思わぬトラブルが発生した。僕が投げた球はガターを超え、球が返ってくるレーンに当たって跳ね返り、さらに反対側のガターまで転がっていったのだ。

夜のさよならパーティーでは、手作りの美味しい食事を食べたり歌ったりした。最後にお世話になったホストファミリーへ感謝の花束を渡す時には、寂しさと感謝で涙があふれてしまったが、しっかりと自分の言葉で感謝を伝えることができて本当によかった。

僕は今回のホームステイ体験を通じて、家族の温かさや人のぬくもりを心から知ることができた。今も心に深く刻んでいるのは、「人と人との間に国境は無い。家族の温かさというのはどこの国であっても姿かたちを変えずに育まれてきた」ということだ。

リアムくんたちが日本に来る際には、日本の素晴らしさを伝えるだけでなく、今回の滞在で学んだ「愛情・友情・絆」を大切にして温かく迎えたいと思う。今回のホームステイに参加できて本当に良かったです。ありがとうございました。



カナダの思い出

稲敷市立新利根中学校2年

野村 湖白

私は、カナダで思い出に残ったことは、たくさんあります。

まず、ホームステイ先での出来事です。ホームステイ先では、夜に UNO をしたり、モノポリーをしたり、あげた抹茶を一緒に作ったり、一緒にアイスやお菓子を食べました。



ホストシスターのアレクセスがめっちゃ借金してて面白かったし、メイクをやり合ったりしました。

1 日目は、save on foods で買い物をしたり、車の中ではディズニーの話をして盛り上がりました。夜ご飯は、クリームパスタを食べました。2 日目の朝ごはんは、パンやスクランブルエッグを食べました。友情の門で写真を撮りました。高校でクッキー作り、Tシャツ染め、カードゲーム、体育館でテニスやバレーをしました。いろんなことを高校でやって 1 日目より仲が深まったと思いました。その後は、アレクセスのおばあちゃんとおじいちゃんの家と、隣の家に行ってお話をしました。家でトランポリンやブランコとか

をしました。その日の夜ご飯は、麺でした。とても美味しかったです。



8月19日から 2 泊 3 日でキャンプをしました。お昼は、カナダのカップラーメンを食べました。デコった T シャツが、夜ご飯のときに届いて大きかったけど、とても可愛くて本当に嬉しかったです。夜ご飯には、皆でハンバーガーを作って食べました。レクリエーションで日本の「だるまさんがころんだ」や、カナダの遊びをしました。



キャンプ2日目は、真央ちゃんのホストシスターであるニーナが、マフィンをくれました。とても美味しかったです。マーガレット滝を見に行きました。滝がきれいでした。帰るときに木登りしたけど、アレクセスが登って降りるのが早すぎてびっくりしました。その後は、ずっと湖に入っていました。

キャンプ3日目の朝ごはんは、またニーナがマフィンをくれました。ご飯を食べ終わっ

たあとは、ニーナと真央ちゃんと自分で UNO をしました。とても楽しかったです。皆と解散したあと、ガソリンスタンドでとても大きいアイスを食べました。ちなみに味は、キャラメルアップルキャンディが上で、下がバニラの味にしました。かなり大きかったけど、とても美味しかったです。その後、アレクセスのおじいちゃんと釣りにいきました。皆で6匹釣りしました。釣りが終わったあとアレクセスの親友の家に行き、プールに入りました。その後、家に帰り、おにぎりや味噌汁を作ってくれたら、とても喜んでくれました。夜、ホストファミリーの人たちに日本語を教えてあげました。「ありがとう」「どういたしまして」の挨拶や、数字の数を教えてあげたら、覚えるのが早いし上手でした。



8月22日の朝ごはんは、シリアルでした。今日は、ホストファーザー、アレクセス、アレクセスの妹と一緒に買い物に行きました。最初は、家畜動物が触れるところに行き、餌やりをしました。次は、キャンディストアに行きました。その後は、おそろいのネックレスなどを買いしました。

8月23日は、ホストマザーであるアシュリーの誕生日だったのでレストランに行きました。その後、お別れパーティーをしました。パーティーの中で、「稲敷たから音頭」を一緒に踊って楽しみました。

約1週間でしたが、日本では出来ない経験ができたのでよかったと思います。アレクセスが日本に来たときは、たくさんおもてなしをしてあげたいです。

